

青少年の体験活動等の重要性に係る普及・啓発事業

「生活・自立支援キャンプ」

1. 趣旨

国立青少年教育振興機構の各施設において経済的に困窮した家庭の子供を対象に自然体験等の活動を通じた「生活・自立」を支援する取組を行い、子供達の基本的な生活習慣の確立や自立する力を身に付けることを目指す。

2. 事業の概要

参加人数及び期日は以下のとおりである。

参加者	開催日時	実施施設
幼児1名・小学生8名・中学生2名・保護者8名	平成29年1月21日(土)～22日(日)	母子福祉連合会
小学生2名・引率1名	平成29年1月27日(金)～28日(土)	児童養護施設
小学生7名・高校生3名・引率2名	平成29年1月27日(金)～29日(日)	児童養護施設
小学生16名・引率3名	平成29年2月3日(金)～5日(日)	児童養護施設
小学生9名・引率2名	平成29年2月25日(土)～26日(日)	児童養護施設

4. 企画・運営のポイント

- ①「宿泊体験」を通して「早寝・早起き・朝ごはん」を意識させ、基本的な生活習慣の育成を図る。
- ②子供たちに自然体験やスポーツを身近に感じさせ、体力づくりの一助とする。
- ③日常にいかせる料理体験の実施
- ④集団生活と人との交流をとおして、人と関わる力を培い、自立心を養う。

5. 日程 《1泊2日》

	午 前			午 後			夜 間		
1 日 目				昼 食	親子で雪遊び	遊びリン ピック	夕 食	親子別プロ	入 浴 消 灯
2 日 目	起 床	朝 食	餅つき体験	解 散					

《2泊3日》

	午 前			午 後			夜 間		
1 日 目						受 付	夕 食	オリエンテ ーション	入 浴 消 灯
2 日 目	起 床	朝 食	移 動	冬の体験活動① スキー体験	昼 食	冬の体験活動② スキー体験	夕 食	自由時間	入 浴 消 灯
3 日 目	起 床	朝 食	冬の体験活動③ 雪あそび	解 散					

※連携団体のニュースに合わせた活動プログラムとする

6. 主な活動



【親子でそり遊び】



【遊びリンピック】



【餅つき体験】



【スキー体験】



【スキー体験】



【つどいに参加】

7. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

母子福祉連合会 満足：100% やや満足：0% やや不満：0% 不満：0%

児童養護施設 満足：86% やや満足：14% やや不満：0% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・子供と二人で雪遊びするのは難しいことなので、今回の雪遊びで子供たちも、親も一緒に楽しめてとても良かったです。
- ・初めての雪遊び体験でしたが、子供が思いっきり楽しんできた様子で良かった。
- ・割り箸ダーツは初めての競技でとてもおもしろかった。
- ・最初からの餅つきは初めてだったのでおもしろかったです。
- ・ご飯がおいしかった
- ・楽しかったです。
- ・プログラムの活動中、個々の子どもの笑顔や表情がとてもよかった。「またやってみたい」という言葉が聞かれた。

(3) 成果

- ①ひとり親家庭事業では全ての項目で100%の満足度を得ることができた。
- ②参加者からも、「とても楽しい時間をありがとうございました。雪遊びが楽しかったです。『みんなで準備して片付けして』という、自分で探して協力してサポートしあうのが好きです。」とコメントを貰えた。
- ③キャンプ中の、朝6時30分起床、7時15分朝のつどい、7時30分朝食、夜21時就寝の生活は、早寝・早起き・朝ごはんの実践を通して生活習慣を見直すきっかけとした。
- ④朝、夕のつどいの時や他団体とすれ違った際などに、あいさつを行いながら交流する場面が多くみられた。
- ⑤複数年事業に参加した団体に、子どもゆめ基金に申請し活動できるような説明を行うことができた。

(4) 課題

- ①参加者から「春夏秋冬と活動していただけると子供との時間もつくりやすくなり、親子でリフレッシュできるのかなと思いました。」というコメントがあり、次回は、複数回実施したい。
- ②スキー体験は非常に評価が高いが、3日目の朝食や昼食にスーパーで食材の買い物などを行い、実際に食事をつくるような調理体験を加えていきたい。

担当：企画指導専門職 山田 健一